

(7) その他の伝承・諺等

天候等に関する伝承・諺の調査の中で、併せて採録した他の伝承等を、動植物、天体、季節・年中行事、縁起と禁忌、健康と病気、地域に関するもの等に分けて整理をした。

動物に関するもの

1) 哺乳類

- ・ 山から動物がいなくなると火事になる
- ・ 山から動物がいなくなると山津波が来る
- ・ ネズミが(家から)いなくなると(三日後に)火事になる
- ・ ネズミが騒ぐと火事になる
- ・ ネズミが家からいなくなると貧乏になる

2) 鳥類

- ・ カラスが変な鳴き方をする(又は カラス鳴きが悪い)と人が死ぬ
- ・ コウモケガラス(=人の子どもが生まれたことを鳴いて知らせるカラス)
- ・ スズメ百まで踊りを忘れん
- ・ ハトが鳴くと種まき時刻
- ・ 野でタカのまねをして鳴くとネズミが逃げていく
「スズメが屋根に停まらなると火事になる」(山田)
「ニワトリがよさ(=夜)に鳴くと火に気をつけよ」(楠原)

3) 爬虫類

- ・ ヘビ(又は クチナワ)が変な時期に出てくるとよくないことが起こる
- ・ クチナワ(=ヘビ)に赤禪をかけると験が良い(昔はヘビを見つけると「赤禪を取ってこい」とよく言った)
- ・ サトマワリ(=アオダイショウ)が(家から)いなくなると悪いことが起こる
- ・ 白ヘビ(=白いアオダイショウ)が家に入ってくると福が来る
- ・ 白ヘビは神様の使い

4) 両生類

- ・ フクガエル(=ヒキガエル)が軒下にいると験が良い
- ・ フクガエルがいるとマブシ(=マムシ)がいない
- ・ ゴトゴトガエル(=ヒキガエルか?)が鳴くと泥棒を呼ぶ
- ・ カエルが玄関にいると験が良い

5) 昆虫その他

- ・ 春の一匹、秋の千匹
- ・ ツクツクボウシがツクンヨーシと4回鳴くと世の中が良い
- ・ ツクツクボウシが栗に小便をかけるとはじく(青い栗がはじけていると「ツクツクボウシに小便をかけられた」と言った)
- ・ 蚊は悪水、ブト(=ブユ)は清水に住む
- ・ 羽アリが飛んでいく日は日柄が良い(=縁起の良い日)
- ・ スントリムシ(=シャクトリムシ)に体の寸を取られると早く死ぬ
- ・ ゲジ(又は ゲジゲジ)が頭をなめると禿げる
- ・ 朝蜘蛛はほところ(=ふところ)へ三べん入れよ
- ・ 朝蜘蛛はほところへ入れよ、福が来る
- ・ 宵の蜘蛛はけつ焼け、朝の蜘蛛はほところへ入れよ

- ・ ムカゼ (= ムカデ) を見ると火事になる
- ・ ムカゼは信貴山の使い者
「ハチが家に巢をかけると繁盛する (ので巢を取るな)」(土山町笹路)

植物に関するもの

- ・ 出穂に水 (= 稲の穂が出る時期 (: では、 であろう) には水が必要)
- ・ 出穂に火 (を) 焚け (= 稲の穂が出る時期に寒いと火を焚け)
- ・ ちゅう (の) 田植え (= 夏至前後の田植え)
- ・ ナスビの花 (と親の意見) は千の一つの無駄がない (又は 生らんためしなし)
- ・ ミゴエ (= ナタネの実が取れる時期)
- ・ 枇杷を庭に植えると不幸がでる
- ・ 藤を庭に植えるとふじ (= 良くないこと) が来る
- ・ 笹 (又は 竹) の花が咲くと不景気になる
- ・ 竹は雪の顔を見ると虫が入る (= 春の竹は柔らかく虫が入りやすい、竹は秋に切れ)
- ・ 野登山の熊笹を苗場の水戸口に差して水を入れると草がつかない
- ・ サトイモの花が咲くと縁起が良い
- ・ サトイモの花が咲くとふじ (= 良くないこと) が来る
- ・ あんまり大きなカボチャが生るとふじが来る
- ・ うどげの花 (= 食物の葉に虫が卵を産みつけた状態) が咲くと悪いことがある
- ・ 朝、霜が降りたら、日が昇るまでに水を打て (= そうすると被害がない)
- ・ 棘がある植物の花や葉を仏さんやお墓にあげてはだめ
- ・ ドングリを食べるとどもりになる
- ・ シタマガリ (= 彼岸花) の根を天井に上げておくとネズミがいなくなる
- ・ シタマガリの根は熱冷ましになる
「小豆は土用三郎までいいが、土用五郎を過ぎると取れない」(楠原)
「浪速のアシに伊勢のハマオギ」(高野尾)

天体に関するもの

- ・ おひさんが欠ける (= 日食) のはおひさんが病氣 (又は 病にかからはった、患わはる)
- ・ 月食はお月さんが病氣 (又は 患わはる 病にかかる)
- ・ 月に星が近いと人が死ぬ
- ・ 三日月を拝むとお金が授かる
- ・ ほうき星が出ると病になる
- ・ ほうき星が出ると戦争が起こる
- ・ 流れ星が自分の方へ飛んで来ると、「ほところ (= ふところ) へ入る」と言い、縁起が良い

季節・年中行事に関するもの

1) 春

- ・ 節分の豆まきは、升に豆を入れて数粒ずつ「えべす、だいこーく」と言って各部屋に撒き、最後に「おにわそと」と言って家の外に玄関から撒き、表口を閉じた
- ・ 昔は、節分に柵の枝に鯛の頭を差して玄関先に付け、「夜には表に出てはいけない」と言われた
- ・ 彼岸さんの雨はやけどの薬
- ・ 彼岸の中日さんに雨が降るとその水はとっとけ
- ・ 彼岸の雨の水をとっておいて、火傷につけると痕が残らない
- ・ 彼岸に天気が悪くないと世の中良くない
「彼岸の中日さんは彼岸の他の日とかけあう (= 彼岸の中日さんの天気は彼岸内の他の日を足しただけの価値が

ある)(萩原)

「4月3日(しがさんち=旧曆)に雨降らなば、池のまといも照り返す(=池底が光る)(萩原、楠原)

2)夏

- ・ 7月の初めは田植えあがり、7月14日は本あがり
- ・ 初めて田植えをする日にはご飯にきなこをかけて食べ、それを「花かけ」と呼んだ(=稲に良い花が咲き多く実るように、という意味)
- ・ 田うちあがり(=最初の田の植えた後の休憩)
- ・ 土用三日かかったらいい(=土用のうちに三日あれば種を播ける)
「せつの中日さんには「立っとる糺にも蓑笠つけよ」と言った(=田植えで大変忙しい)。(楠平尾)

3)冬

- ・ 池は寒の満水(=冬には池を満水にしておけ)
- ・ 冬至にはカボチャを食べる

縁起と禁忌に関するもの(他で出たものは除く)

- ・ 結婚式のばらばら雨は良い
- ・ 赤禪を(頭に)かぶせてもらおうと運が良くなる(かぶせてもらいによく女郎屋へ行った)
- ・ 井戸の水があふれる夢を見ると家がのだつ(=運が良い、繁盛する)
- ・ 自分が死ぬ夢を見ると長生きする
- ・ 午の日に餅つくな
- ・ 12月29日に餅つくな(=9は苦で、苦もちは良くない)
- ・ 29日の餅は良い
- ・ 年の初庚申に当たると運が良い
- ・ 土用に入ったら杭を打つな(=土の神様をこつため)
- ・ 月の7日に旅立ちするな、帰るまいぞ9日に
- ・ お墓でこけると靴を片方置いて帰ってこなあかん
- ・ 墓でこけると早く死ぬ
- ・ 夜に笛を吹くとヘビが来る
- ・ 夜に爪を切ると親の死に目に会えない
- ・ 咲いている花を摘んで、髪の毛に差してはいけない
- ・ ご飯を食べた後すぐ寝ると、牛になる
- ・ 女はいい棒を跨ぐとあかん

健康と病気に関するもの

- ・ 頭が痛いときは、おでこに梅干を張れ
- ・ 風邪を引いたときは、手拭いにネギを入れて首に巻くと良い
- ・ 節分の豆を取っておいて、仏さんにあげ、田村さん(=田村神社)に上げに持ってけ(=厄落とし)
- ・ 節分の豆を食べると夏痩せしない
- ・ メンボ(=ものもらい)ができたなら、目をつぶって米粒を井戸へ落とせば治る
- ・ しゃっくりが出たら、茶碗の上にお箸を十文字に置き、そこにお茶を入れて4回で飲み干すと治る
- ・ しゃっくりが出たら、左手の手のひらに犬という字を3回書いて握れば止まる
「(大き目の)ラッキョの生を炊いて食べると年中無病」(水沢)

地域に関するもの

1) 伊勢の地

- ・ 伊勢路において地震に心配するな
- ・ 伊勢路においてもの案じするな (= 人通りがあるから生きていける)
- ・ 伊勢の片目のかたちん、片まいげ
「伊勢の片目、かたびん」(三宅)

2) 鈴鹿郡内

- ・ 加太の相撲は三人がかり
- ・ 関は良いとこ入れば地獄
「加太の炭を背負う (= 死ぬ)」(木田)

干支に関するもの

- ・ 午の早い年は火高い (= 火事が多い)
- ・ 猿、酉、越えて、戌の怖さ (= 戌年は怖いことが起こる)

人間関係に関するもの

- ・ 親と子じゃもの、行かいじゃ来いじゃ、新小道の小草の枯れるほど
- ・ 鬼の居ぬ間に洗たくじゃぶじゃぶ

その他

- ・ いわし雲が出るとイワシが豊漁 (で安くなる)
- ・ 前触れにためしなし (= 前触れがあると、必ずそうならない)
- ・ 前触れにももらうためしなし
- ・ かきもち (又は あられ) は貧乏人の子に焼かせ、もちは大名の子に焼かせ
- ・ 隣のポタモチ、くれそうでくれやん
- ・ しがんぼ (= けち) のポタモチ、くれそうでくれない
- ・ 西の山が赤くなると凶変が起こる
- ・ 井戸の水が底る (= 無くなる) と新庄が下る (= 家運が悪くなる)
- ・ 山根貧乏 (= 山に近いとよく雨が降り金儲けができない)
- ・ 山豊作、畑貧乏 (: はたびんぼう)
- ・ 飢饉になると椎の実を拾いに行く
- ・ 感謝せんと不作になる
- ・ 会食 (= 田舎の家での会食) で酒などを飲みなかなか自宅へ帰らない人がいると、「かいど (= 前庭) にほうきを逆さまにして立てよ」と言った
- ・ 立てば大木、座れば引き臼、歩く姿は豚の尻
- ・ 「牛が足を悪くするから」と言って、夕方になると塩を売ってもらえなかった
- ・ 川でおしっこをするときは「川の神様杓一杯どうぞ」と言った
- ・ 仕事は大勢でせよ、おいしいものは小勢で食べよ
- ・ ゆいつぎ (= 口頭での言い伝え)
- ・ 天火を 20 歳までに見たら、何度もみる
「春はポタモチ、秋はオハギ」(榎原)